

第53回 福岡県統計グラフコンクール入賞作品展示

第53回福岡県統計グラフコンクールの最終審査を9月20日に行い、応募作品503点の中から入賞作品52点が選ばれました。入賞作品を各部ごとに展示していますので、ご覧ください。

入賞者の皆様、おめでとうございます。

ご応募いただきました皆様、先生方、並びにご父兄の皆様、ご応募、ご指導ありがとうございました。来年度もすばらしい作品のご応募を楽しみにしておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

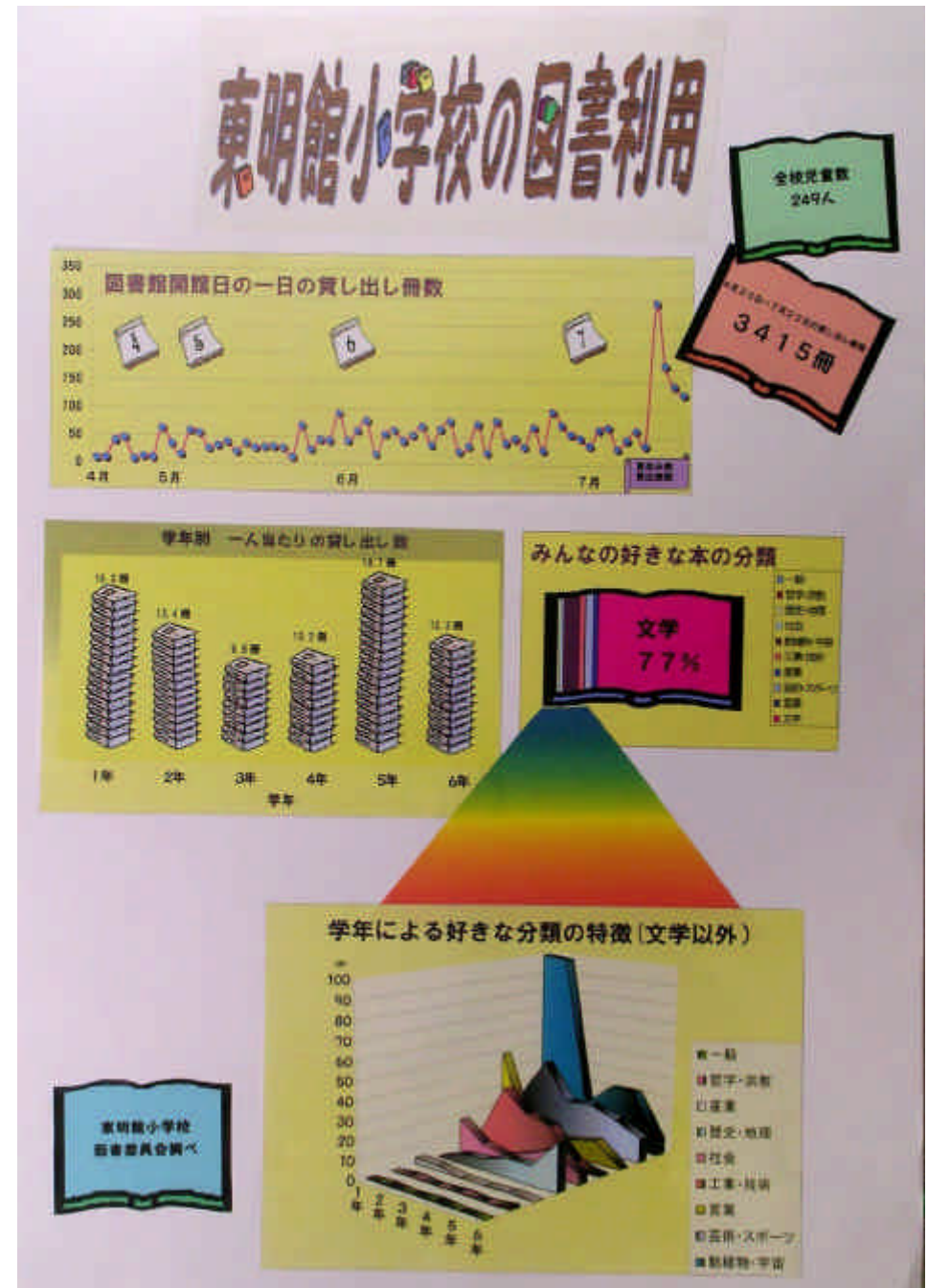
パソコン統計グラフの部 (小学校の児童以上一般まで)

特 選

東明館小学校の図書利用

東明館小学校

6年 つつみ じゅり
堤 樹莉

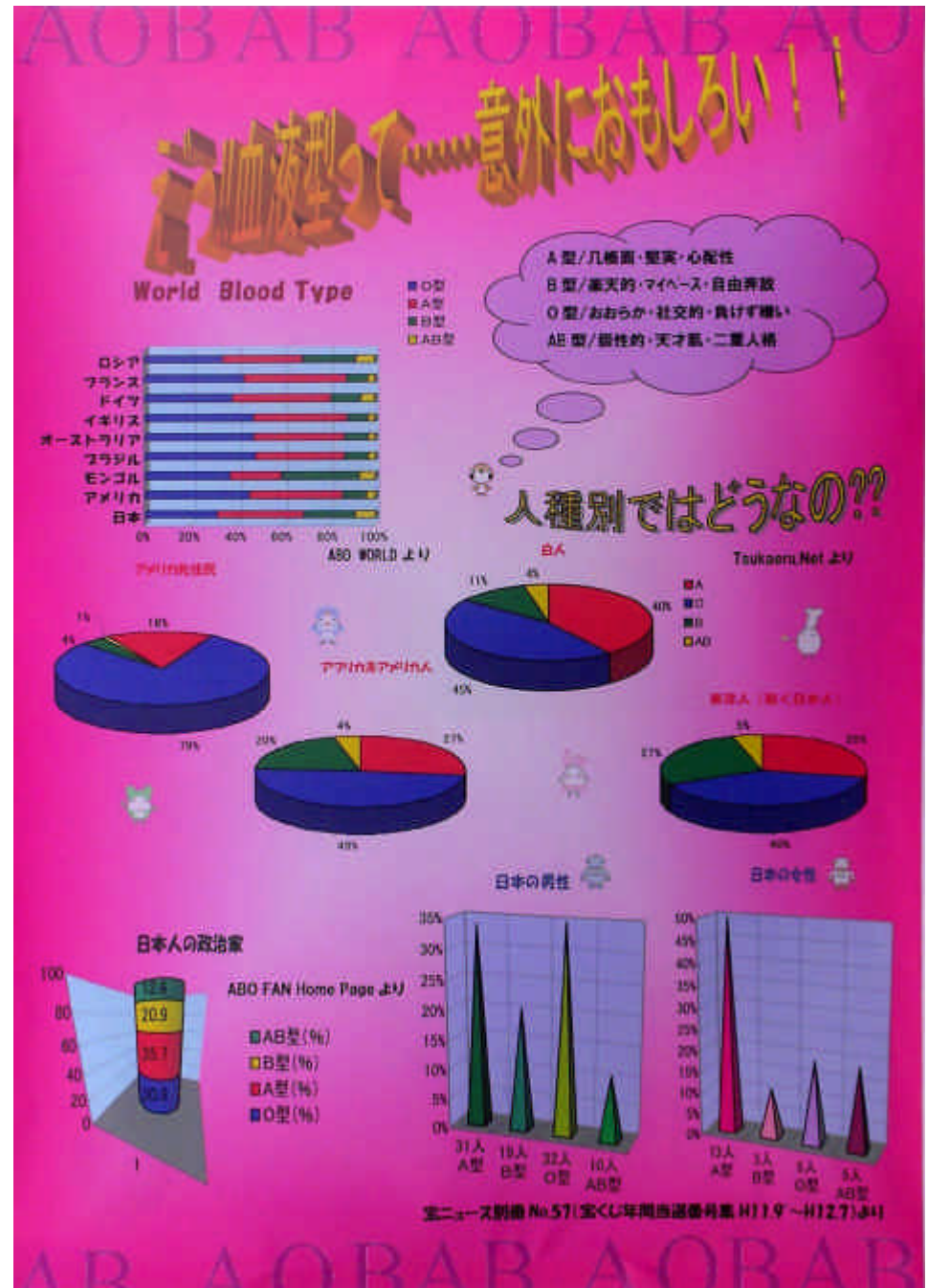


入 選

え “っ！！血液型って……
意外におもしろい！！

大牟田市立延命中学校

3年	いえどみ 家富	さおり 沙織
	はしぐち 橋口	あやか 采佳
	たはら 田原	さとみ 聡実
	さるわたり 猿渡	な お 菜生



入 選

日本の学力はここまで低下した 大牟田市立延命中学校

- 3年 わたなべ しょう
渡邊 翔
まえやま く に ひる
前山 邦博
いしかわ しんや
石川 真哉
こざかい あつし
小堺 淳史

日本の学力はここまで低下した

中学での理科科目の割合

国	割合 (%)
日本	25
韓国	35
ロシア	45
フィンランド	55
オランダ	65
スイス	75

資料「先進国中最低レベルの（理科）」

日本の小学校の理科の時間数は、授業や課外で時間数上りも下りもない。授業に比べて半分以下である。

科学的応用力

国	スコア
日本	230
フィンランド	250
ドイツ	250
韓国	180
ロシア	150

資料「日本の学力急落（2004.12.7 神岡タイムズ掲載）」

科学的応用力は、世界第6位だが、その中学理科平均に相当49年次の国は理科の入学試験を解かなくても、49年次でしかとれないという。

英語読解力

資料「日本の学力急落（2004.12.7 神岡タイムズ掲載）」

読解力は世界14位と1990年代と比べて低くなっている。しかも日本では、国立行政法人「メディア教育開発センター」の調査によれば、中学レベルの読解力しかない大学生が、国立大で15%、4年制私立大で20%、短大では35%にのぼっていることがわかってきている。

科学的思考力

資料「日本の学力急落（2004.12.7 神岡タイムズ掲載）」

現在、科学的思考力は世界第2位であるが、このまま学力低下が進むと、衰退してしまうおそれがある。

イギリスの義務教育では、日本の高校物理教育の内容をほとんどおぼえているだけでなく、大学で習う内容もたくさん習得する。日本では物理1を習う高校生は全体の4分の1しかいない。

このまま学力低下が進むと！

このまま学力低下が進むと、科学と工業の発展だけで進んできた日本の学力（特に理科力）の低下は、日本の科学が衰退する可能性を意味する。

文部科学省や政府などの機関はこれらの問題を重く受け止め、対策をうっていかねければならないのではなかろうか。

佳作

急速に広がるインターネットの輪

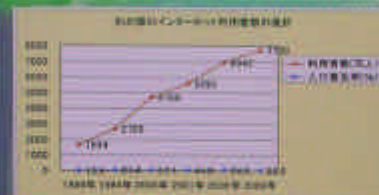
福岡県立門司高等学校

1年 いけもと ゆうこ
池本 祐子

急速に広がるインターネットの輪

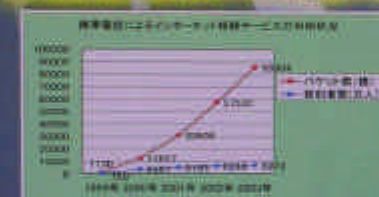
「情報化社会」といわれる現代社会。なかでもインターネットはいろいろな分野で私たちの生活に便利な機能を与えてくれている。私はそんなインターネットについて調べた。

(1) 我が国のインターネット利用世帯数の推計



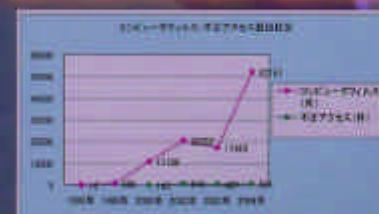
→国内のインターネット利用者、人口に対する普及率が年々増加していると分かる。

(2) 携帯電話によるインターネット接続サービスの利用状況



→携帯電話からインターネット機能を利用する人も増加していることが分かる。

(3) コンピュータウイルス・不正アクセス発生状況



→利用者の増加に伴って、ウイルスや不正アクセスの被害相談も増えている。

これが問題点!!

～まとめ～

これからグラフから、インターネットは「求める情報は本当に必要であるか」、「信用できるサイトであるか」、「間違った情報ではないか」などを正しく判断しながら慎重に利用することが大切だと思った。

佳作

お米について

福岡県立門司高等学校

1年 にしがき あやの
西垣 綾乃

お米について

私は、食事の洋食化が進みお米の消費量が減りパンの消費量が増えたと考えました。

1人あたりの米の消費量

年	消費量 (kg)
1997	115
1998	110
1999	95
2000	85
2001	80
2002	75
2003	70
2004	68
2005	65
2006	65

1人あたりのパンの消費量

年	消費量 (kg)
1997	25
1998	25
1999	25
2000	45
2001	45
2002	50
2003	50
2004	55
2005	55
2006	55

この2つのグラフを比べてみると、お米の消費量が減りパンの消費量が増えていることが分かります。

パンの方が時間も手間もかからずに手軽に食べることが出来るからではないでしょうか。

しかし、そんな中でこのような結果がでています。

お米の摂取量が 大気の浄化が高まり
0.5% (30g) 増加 → 酸素 120 万増加 二酸化炭素 150 万吸収

米の自給率

年	自給率 (%)
1997	120
1998	110
1999	105
2000	100
2001	98
2002	95
2003	95
2004	95
2005	95
2006	95

年々自給率は減ってきている
ということです。これ以上
自給率が下がらないようにして
お米を少しでもたくさん食べて
生産量を増やしていくべきだと
思います。

《感想》

私は、パンよりも炊きたての白いご飯の方が好きです。
だから今回の結果は少し残念だなと思いました。

しかし、米を育てることで、大気の浄化が出来ることをたくさんの人に知ってもらってお米をたくさん食べようという気持ちになってもらえたらとても嬉しいなと思いました。

佳作

食の安全について

福岡県立門司高等学校

1年 たていし ようこ
立石 陽子

食の安全について

マイボイスコム株式会社
http://www.myvoice.co.jp/biz/surveys/surveys12.html

食の安全に対して不安を感じているか。(複数)

不安を感じる	31%
やや不安	29%
やや平気	21%
平気である	19%

食の安全に対して不安を感じる理由。(複数)

食中毒	31%
食中毒以外の食品	29%
食中毒以外の食品	21%
食中毒以外の食品	19%

食の安全に対して不安を感じているかという質問を行った所、男女共にやや不安だと思う人が一番多かった。女性の方が不安感を多く持っている事も分かった。具体的にはどのような事に不安を感じるのだろうか？

どんな事に対して不安を感じるか。

食中毒	81%
アレルギー	31%
農薬	23%
遺伝子組み換え食品	22%
添加物	17%
放射能	16%
化学物質	11%
遺伝子組み換え食品	7%
その他	3%

グラフを見ると、BSEや鳥インフルなど世間で話題になった問題について不安に思う人が8割だった。自分的には、食中毒が一番怖いものだと思う。

実際に食品を買う時に注意して見る場所は、賞味期限・原産地など必要最低限な箇所だというのが分かった。最近ではパッケージに詳しく商品について書かれているのでじっくりと品定め出来ると思う。

感想

今は価格よりも品質を選ぶ時代なんだと思った。これからも食に関しては慎重にいきたいと思う。

食の安全に対する不安を感じる理由の割合

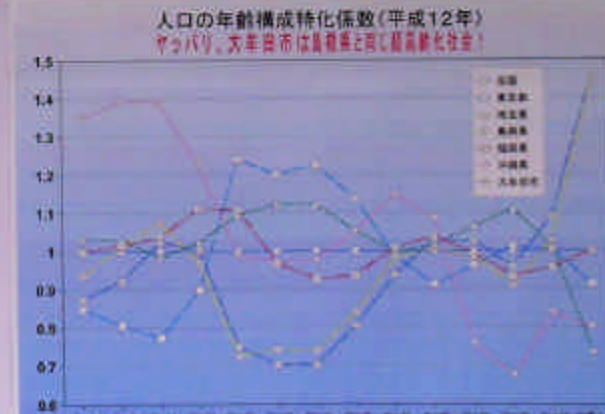
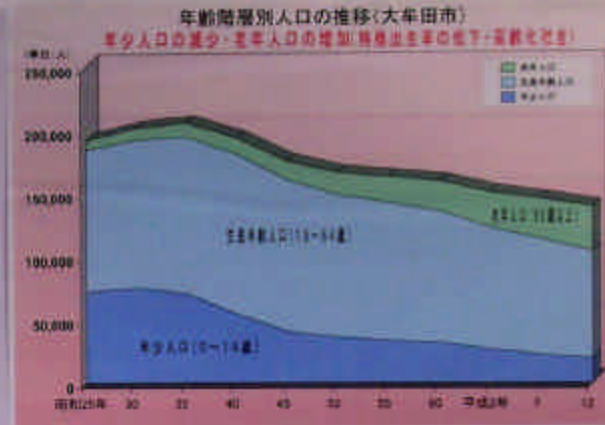
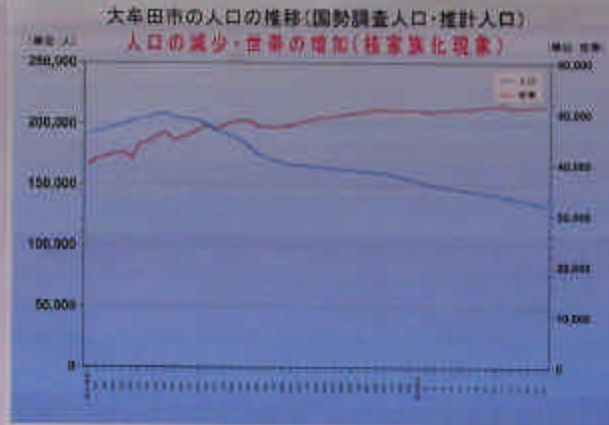
食中毒	31%
食中毒以外の食品	29%
食中毒以外の食品	21%
食中毒以外の食品	19%

佳作

10年先を行く超高齢化社会の大牟田市

なかしま やすのり
中島 宜徳

10年先を行く超 高齢化社会の大牟田市



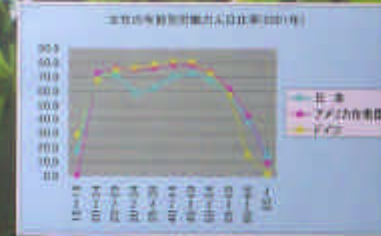
未来は、2005年国勢調査結果!

佳作

男女共同参画社会を目指して 福岡県立門司高等学校

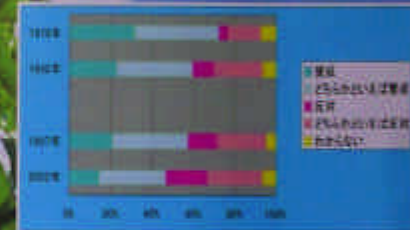
にしだ さき
1年 西田 早希

男女共同参画社会をめざして



他国は20代~40代の間のグラフの変化が小さいの
にたいして、日本は20代
後半から30代前半にかけ
て就労率が減少しまた30代
後半から40代前半にかけて
就労率は増加している。

「男は外で仕事、女は家庭を守る」
という考え方について2000年
での賛成という意見は1979年
に比べ、半分以上減少している。



「男は仕事を持つべきだ」と考え
ている人の割合は高い。
しかしやはり「結婚するまで」や
「子供ができるまで」などの家庭の
責任を考えた意見がでている。

まとめ

女性にとってもやはり働くことは大切なことである
しかし女性には、結婚、育児、家事の負担が男性に比
重の重いのが実情である。そのため女性のさらなる社会
進出のためにも家族の協力が必要となってくる。
また育児休業法などの支援制度が向上が望まれる。

佳作

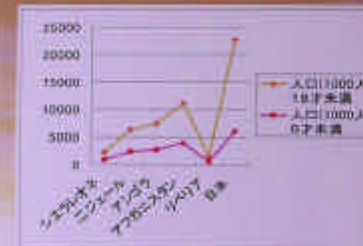
世界の発展途上国の

生存率について

福岡県立門司高等学校

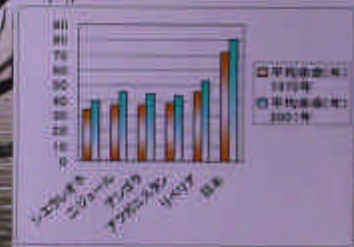
1年 しろいし ゆりこ
白石 百合子

世界の発展途上国の 生存率の現状について



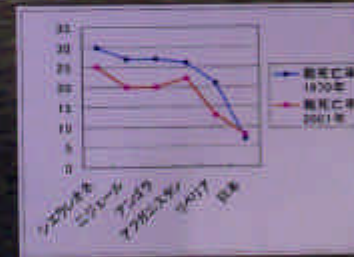
このグラフは、それぞれ5年未満の死亡率上位5か国と日本を表したグラフです。まず、左のグラフは人口を表しています。これを見るだけでも発展途上だということが分かります。

そして、右のグラフはそれぞれの国の平均寿命を示しています。1970年の時と比べて延びているものの、日本に比べるとかなり低い事が分かります。また、右下のグラフは年齢別の死亡率を示しています。平均寿命が延びている事に伴い、1970年の時と比べて2010年の死亡率は下がっているもののやはり差は大きいと言えます。



●まとめ●

まだまだ私たちの知らないところで多くの人が苦しんでいるんだと思います。世界中のみんなが協力していけたらいいのになあと思います。



<http://www.unicef.or.jp/>